

夏山に戀しき人や入りにけん

聲ふりたてゝなくほとゝぎす

子どもの泣くことについて

ひ さ 子

私わたくしがこゝに申まうさう、と思おもひます子どもは、一歳ひごつや、二歳ふたつの赤兒あかばではなくて、おもに幼稚園時代ようじえんじだいの、四歳よっから八歳位やっへちらゐまでの子こどものこととございます。

一體いつたい、子こどもはよく泣なくものでござりますが、これには、肉體からだの苦痛くつうの方ほうから來くる啼泣なき、たとへば、頭あたまが痛いたいと、か、腹はらが痛いたいと、堪たへられませんで泣なくのと、また精神こころの方ほうから泣なくのと、大別おほいして二種類にしゆゑになるであらう、と思おもひます、そ

して私は今、精神こころの方ほうに付つて考かんがへたことを申まうします。

子こどもが、精神こころの方ほうから泣なきますには、誠まことにいろいろございまして、一々いちいちかぞへることはできませんが、まづすねて怒おこつた泣なくのもあり、悲かなしがつて泣なくのもあり、物事ものごとにびつくりして泣なくのもあり、こはがつて泣なくのもあり、氣きが小ちひさく依頼いらい心しんがつよくて、極小ごくちひさな何なんでもないことに泣なく子こどもあり、又また自分おんの慾望よくぼうをかなへんために、泣ないておどすのもあり、又また自分おんの悪わるかつたことをはぢて泣なくのもあります。又また大きな聲こゑで、永ながく泣なくのもあれば、しくしくと泣なくのもあり、大聲おほいこゑで泣ないてすぐやむのもございます。

此この通り、子こどもの泣なくのに、實じつにいろいろございしますが、此この泣なくといふこと、子こどもの性質せいかう

とは、はなれられない關係を持って居ります。たとへば、一寸したことにすぐ泣く兒は、大抵氣が小さいとか、おこりつばいとか、あはれつばいとかの性質を持って居り、永くしくくと泣く兒は大方陰氣な兒であり、悪をはぢて泣く兒は、廉耻心に富む子でございます。ですから幼兒の自然として全く放任しておいてよい啼泣もあり、又やめさせなければならぬ啼泣もあります。

かの、子どもが泣きさへすれば、機嫌をとつて泣きやませるとか、一も二もなく、やかましいとか、よわいとか、言て叱るとか、泣く毎に父母がまけるとかは、いづれも心ないしかたと思ひます、とにかく子どもの泣くといふことは、其子どもの性質上から、泣く場合、原因、泣き方などをよく考へて、其處置法、矯正法を定めなければ

ばなりません。

私の知て居ります兒に、一人大變よく泣く兒がございまして、この兒は心力のよく發達した、鋭敏な兒でございしますが、幼兒不相應に、感情殊に悲哀の情がつよく陰氣で一寸したことでもひどくかなしがりまして、一度泣き出すとなか／＼やみません。ところが、或日私が此兒の母にあひましたらば、其母は私に向て、自分の夫、即ち此兒の父のはやく亡くなつたこと、今は母子で實家に同居して、いつも身の不幸をかこち居ることなどをくはしくかなしげに語りました。

そこで私はなるほど、思ひました。即ち此兒の不幸、殊に阿母さんのいつも言ふ泣き言が、此兒を此様によく泣く兒にしたのであるとさとりました。

それ故に、私は阿母さんに、

此様な鋭敏な児には、あまりかなしいことをきかせぬがよろしいでせう。幼児の間は、なるべくそばの人も、元氣よくしてやるがよろしい。

と注意いたしました。

それから、一月二月と經つに從て、此兒はだんだん愉快に活潑になりました、泣くことも少なくなり、今では、かなしげに泣くことは殆ど全くやみ幼児らしい元氣な兒になりました。

産月の腹をひへて田植かな

子供服の裁縫

岡本 ちか

二十八

衛生上、衣服の目的は寒熱を防ぎ、皮膚の健康を保つにあれば、氣候によりて、其地質を撰ふべく、殊に更衣の季節の如き、温度の激變し易き時には、一層之が撰擇に注意して、病に冒されざる様、心掛くべきこと肝要なり。斯る時季に、最も適するは毛織にして、即ち其質よく體温を保ち、外熱を遮り軽くして柔かに、且つ暖かなれば小兒などの衣服には、最も適當なり。左に「フランネル」を以て幼児服の裁方、并に縫方につき記さんどす。

幅二尺長さ四尺五寸の「フランネル」を以て一つ身服の